

患者さんへ

当科における膿胸診療実績の検討

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。

このような研究では、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得ることが困難な場合には、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。

なお、研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

1 研究の対象	2019年4月1日～2022年3月31日に当院画像・IVRセンターで、膿胸の治療のため、ドレナージチューブを挿入・交換した患者さん
2 研究目的・方法	<p>膿胸とは、胸の内側にある肺の周りの空間(胸腔)に細菌が感染して膿(うみ)が溜まってしまう病気です。早い時期に治療を開始できる場合、体の外に膿を追い出すために胸腔に細い管(ドレーン)を挿入する「ドレナージ」と、細菌を駆除する「抗菌薬」の投与で速やかな改善が期待できます。一方、時間が経ってしまった場合や合併症のために手術が必要になる場合もあります。</p> <p>最近では、ウロキナーゼという薬剤による線維素溶解療法を行うと、ドレーンが早くに抜けて早期に退院できる可能性、手術を回避できる可能性があると報告されています。当院でも必要な患者さんに対し、線維素溶解療法を行っていますが、線維素溶解療法と手術のどちらがより患者さんに適切かを検討していく必要があります。</p> <p>そこで、本研究では、患者さんのカルテ情報を収集することで、膿胸症例の治療成績(入院期間や合併症など)を分析し、治療戦略を検討することを目的とします。</p> <p>研究の期間:施設院長承認後 ～ 2023年12月</p>
3 情報の利用拒否	情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんのご家族等で患者さんの意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としません。その場合は、「5. お問い合わせ先」までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。
4 研究に用いる情報の種類	<ul style="list-style-type: none">・研究対象者背景(年齢、性別、身長、体重など)・病歴情報(原疾患、合併症・併存症など)・手技・治療に関する情報(線維素溶解療法施行の有無、合併症の有無、ドレーン留置期間、入院期間、外科的治療の有無、検査値・画像所見など)・その後の転帰(退院先など)
5 お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:</p> <p>札幌東徳洲会病院 画像・IVRセンター・部長 松田 律史(研究責任者)</p> <p>住所:札幌市東区北33条東14丁目3番1号</p> <p>連絡先:011-722-1110(代表)</p>